

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502470	
法人名	医療法人社団 高台病院	
事業所名	グループホーム はしどい	
所在地	札幌市豊平区美園3条8丁目4-5	
自己評価作成日	平成22年4月21日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502470&SCD=370
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アイケア・ネット
所在地	北海道札幌市中央区南2条東1丁目1番地12
訪問調査日	平成22年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のご健康で穏やかに毎日過ごされる様に、「自分の両親だったら」という思いを常に持ちながら、入居者様に接しさせて頂いております。
母体の病院と連携し、適切な医療を受けられるように支援して居ります。
食材も国内産の物を使用し、建物の裏にある菜園に入居者様と一緒に野菜を育て、採れたての野菜を食卓にお出しして居り、お料理もすべて手作りで、彩り良く盛り付け、旬の味覚を楽しんで頂けるように努めて居ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員が「家族のように接する」という理念を常に念頭において、利用者が「新しいわが家」として地域で暮らしていくための安定した支援を行っており、利用者や家族が安心して暮らすための環境となっている。食事の支援は、菜園で収穫した野菜をメニューに取り入れたり、彩りや盛り付けにも工夫したり、安全かつ楽しんで食事ができるよう支援が行なわれている。また、利用者の希望を取り入れ、カロリーや栄養バランスに配慮したメニューとなっている。運営推進会議等の際に、介護や認知症に関する情報提供を行っていたり、行事等の際に地域の協力が得られていたり、地域とのつながりを大切に、地域に根ざした事業所となるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルーム等見やすいところに掲示しており、個々の身分証の裏にも記入している。その人らしく毎日を過ごして頂けるよう、職員は日々4つの理念を念頭に置き介護を実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の運営理念が掲げられており、利用者が地域でその人らしく暮らし続けるためのサービスの実践に取り組んでいる。	事業所の目に付く場所に理念が掲示されているが、パンフレット等に明示するなどして、事業所の理念を広く周知・啓発を図るための取り組みが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には近隣へのスーパーへ利用者と食材の買物での交流に努めている。夏祭り、子供神輿など地域の行事への見学や参加など、地域との関わりを深めていくよう努めている。	近隣での買い物や散歩を通じて地域住民との交流を深めている。祭りなどの町内の行事に参加したり、事業所の行事に参加してもらったり、積極的に地域との関わりをもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会長さんや民生委員の方に出席いただき、運営推進会議の中で、すぐに役立つ情報や、認知症についての話し合いを行い、支援の方法など、情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が定期的に行われている。ホーム内の行事の紹介をしたり、出席して下さる方々のお役に立つ情報を提供出来るように努め、介護に関する情報提供も行っている。	利用者、家族、町内会長、民生委員等の参加により定期的に開催されている。事業所の現況、行事など地域に密着した内容の協議がなされサービスの向上に活かしている。地域への「勉強会」の開催等にも取り組んでいる。	広く意見を得て更なるサービス向上のため、幅広い立場の人の参加招集に努めたり、行事などを組み合わせた日程調整を行い、2ヵ月毎の会議の開催に取り組む事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市管理者連絡会議に出席し情報の交換を行っている。	管理者は、市や区主催の管理者会議への出席や勉強会、研修会にも参加し、組織間での情報の共有や問題解決の協議化に努め事業所の質の向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで定期的に身体拘束禁止の勉強会をしており、職員は皆理解して実践している。転倒の危険性のある方は特に見守りを強化し、声掛け介助をこまめにしている。	管理者、職員は、身体拘束による弊害を理解したサービスの提供に努めている。玄関などの出入り口にはセンサーを設置し、利用者の動向を察知できるケアへの取り組みで、鍵をかけないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	はしどいミーティングにおいて虐待防止の資料を用い、勉強会をしており、職員も十分理解しており、声掛けなどにも十分注意を払い一人一人が防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者様も居り、勉強会で制度を学ぶ機会をもちそれらを活用出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は入居者様やご家族に十分説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に入居者様のご様子を報告し、要望があれば随時ミーティング等で検討し、出来る事を実践している。また、「皆様の声」と言う箱を設置しており、ご家族のご意見が聞けるようになっている。	苦情の受付窓口を明らかにしており、家族からの意見や要望は会議などで検討し運営に反映させている。また、毎月の報告や面会時、行事への参加を通じて、意見や要望を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや朝礼時・普段の業務の中で何かあればすぐ提案し、検討してもらっており、反映されている。	職員の意見や提案は、申し送り時やカンファレンス、ミーティングなどを通して積極的に受け止め、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員各自が向上心を持って働けるように、職場環境条件の整備に努めている。(休日、手当等保障されている)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	はしどいミーティングの中で勉強会を繰り返し行っている。スキルアップ講習や研修等を受ける機会を確保するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市管理者会議、各区の集まり、札幌市の研修などに参加し、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい入居者の方は不安もあり落ちつかれなくなる事もあり、時間を作りお話をする機会を設け、安心して遠慮なく話していただけるよう時間をかけて信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や書面で、ご家族が困っている事や不安な事、要望等にも耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長とケアマネージャーが初期面接時にご本人・ご家族が必要としている支援を見極め、サービス計画にも取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かす事を念頭に置きながら、ご自身で出来る事はお願ひし、お台所のお手伝い等をして頂き、感謝の気持ちを伝え、支えあう関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には居室でゆっくりと過ごして頂ける様心掛けています。ご本人とご家族が良好な関わりを持続できるよう、ご家族とこまめに電話等でご相談してご協力いただきながらご本人を支えるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないように、ご家族のご協力を得ながら面会にも足しげく来ていただいたり電話を取り次ぐなど支援に努めています。(面会、外出、外泊)	事業所は家族の強力な応援のもと、利用者の馴染みの人や場所の関係を断ち切らせない様に努めています。面会・外出・外泊を含め、行きつけの理・美容室への支援など、継続的な交流が出来る様に取り組みがされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	穏やかに入居者様同士が関わりあえるようレクリエーションの参加を呼びかけたり、ソファの配置を考え、顔を合わせやすい様交流の場を設けている。入居者様同士で仲介が必要な場合には職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退去される場合は、必要に応じて情報を提供し、相談等があれば都度支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを大切に、その方の生活リズム合わせるよう努めている。ご希望やご意見を表出できない方には、日常生活の中で意向を汲み取るようにし、担当者会議やカンファレンスを行い検討している。	アセスメントや家族からの情報などを通して利用者への理解を深め、日々の状況を把握し、利用者の自己決定を大切にして、個々のニーズに対応できるよう支援が行なわれている。担当者会議やカンファレンスにおいて意見交換と共有が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活などをご本人からの聞き取りやご家族から情報提供いただいたものを個人ファイルにまとめており、職員で共有・把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの表情をよく見て、毎日バイタルチェックを欠かさず、申し送りや連絡ノートを使い情報を共有し、変化があれば対応できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、ご本人がどうありたいかを考えた介護計画を作成している。ご本人には直接お話を聞き、ご家族には面会時や書面で、職員にはカンファレンス等で話し合い、モニタリング・アセスメントを通して共有している。	利用者の日々の生活状況は生活記録や個別支援経過記録などで情報の共有され、カンファレンスにおいて利用者や家族の希望と共に検討されている。センター方式を取り入れ、利用者の思いを重視した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やご本人の言葉を生活記録に記入し、ケアチェック表、個別支援経過記録等をこまめに記録し、申し送りに際しても伝え漏れがないように行い、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合ったサービスの提供が行える様に、日々対応している。(訪問理美容、外出、買物、受診等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署指導での年2回実施の防災訓練や、運営推進会議に民生委員、町内会長さんや、地域包括支援センターの方々に参加して頂き、情報の交流や講習等を実施しご本人の暮らしを支えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高台病院が母体であり、医師に往診や相談を受けられるようになっている。内科の受診はご家族とよく相談して適切な医療を受けられるように支援している。	運営母体が病院であることもあり、かかりつけ医との連携がスムーズに行われており、利用者や家族が安心して医療が受けられる環境となっている。看護師が採用されたことで更に連携が深まると思われる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の病院と連携(相談)し指示を受け、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長や管理者が病院関係者と情報交換・相談をしている。退院時は事前に情報を頂き職員が把握できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、ご家族の意向や希望を考慮し、主治医からの意見も頂いて、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し、支援している。	事業所として終末期ケアは実施していないが、契約時に重度化した場合や終末期に関する対応の方針について、本人や家族に十分な説明を行い同意を得ています。利用者が変化に応じて本人や家族、医療関係者を交え話し合い、共有に取り組んでいる。	重度化や終末期の対応指針を明文化し、出来るだけ早い時期から本人、家族の意向を踏まえた話し合いを持つ事が必要です。また、全職員が講習会へ参加する事でターミナルケアに対応出来る体制を整え、関係者間で方針の共有を図る事が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防署員の方に年1回程度AEDの使い方・応急処置を指導していただき、全ての職員は訓練や実習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練を行っている。町内会長さんにご協力を要請している。	消防署の協力を得て、利用者も参加した定期的な避難訓練を行っている。訓練では消火器の使い方や夜間を想定した訓練も行っている。相互に協力しあうため、町内会長や地域住民への働きかけが行われている。	災害に備え、利用者の安全確保と避難誘導のための方法の全職員の習得が必要である。地域住民との協力関係や救急対応の強化が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守るよう各居室は施錠出来るようになっている。人格を尊重し誇りを損ねない言葉掛けや対応を心掛け、失禁時は目立たないように居室で対応している。	利用者がその人らしくあるために、意思と尊厳を大切にし、誇りを損なわないような日々の支援に努めている。個人記録等は居室名を使用し、利用者のプライドやプライバシーに配慮した書類の管理がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のレクリエーション等は入居者様のご希望を聞き、取り入れながら自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、柔軟に対応している。特に入浴は体調等を見ながら希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔が保てるよう、毎日の下着の交換をし、季節に合った洋服や好みの洋服を着ていただいている。訪問理美容を定期的を実施し、毎朝洗顔時に身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものをメニューに取り入れ、彩りにも気を遣い、入居者様の間に職員が入り一緒に食事をしている。ひとり一人の「出来ること」を活かしながら、食事の盛り付け、片付けなどもお手伝いをして頂いている。	食材となる野菜の栽培から、食事の後片付けまで、利用者のできることを活かした食事の支援が行われている。メニューや盛り付けなど見た目にも食事を楽しむことができるよう工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下機能を把握し、刻み食も提供している。食事量・水分量はケアチェック表に記入し、一人ひとりに必要な食べる量・栄養バランス・水分量が確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回の口腔ケアを欠かさず実施している。自力で出来る方には声掛け見守りをし、介助の必要な方は毎回職員が付いて対応している。週に1回定期的に義歯の消毒もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターンを職員はチェック表などで把握しながら、尿意・便意のない方には定期的に声を掛け、トイレに誘導し、個々に合わせた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握した上で尊厳に配慮したさりげない声かけを行い支援しています。パットなどが必要な場合も利用者一人ひとりの状態に合った種類を検討しながら取り組みを重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは欠かさず行っており、職員は熟知している。便秘の方には牛乳・ヨーグルトを摂取して頂いたり、廊下歩行やレクリエーション等で体を動かして頂いている。献立には便秘予防の為、食物繊維を多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりのご希望(入浴方法・温度・回数)を取り入れ、個々の体調やタイミングをみて無理のないように入浴していただいている。	入浴は、職員の都合で決めることなく、利用者の状態や希望、タイミングに合わせた支援が行われている。バイタルチェックを行うなど安全にも配慮し、支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣やその時の状況に応じて休憩したり、安心して眠れるように支援している。夜間は物音や室温・湿度に気を配り、夜間眠れない方には温かな飲み物等も摂って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法・用量については職員全員理解し誤薬のないよう、2名チェック体制を取っている。入居者様と袋名を声を出して確認している。症状の変化時は施設長を通し、かかりつけ医にすぐ連絡し指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや気分転換が出来るよう個々の「興味」や「出来る事」を把握しながらレクリエーションや季節の行事、日常のお手伝いに参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーでの買物や散歩、畑の作業や収穫など、戸外へ出かける支援に努めている。ご家族との外出支援と個別ケアでの外出の支援も行っている。	日々の散歩や買い物、畑作業などを通して、一人ひとりの希望や状況に応じた外出支援が行われており、室内のみで過ごすことのないよう支援が行われている。家族との外出ができるよう支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持される事、希望される方については、ご家族と連絡をとった上で支援している。お金は事務所の金庫で管理されているが必要な時はいつでも使用できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された時はいつでもご家族に電話を掛けることができ、取次ぎ等の支援を行っている。また、ご本人が不安な表情の時は職員から声掛けし、電話をおつなぎする支援ようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然光が入るように窓は大きく作られ、明るく、レースのカーテンで採光を調節し、日々の清掃に努め、居心地良く過ごせるようにしている。季節の行事に合わせてリビングや廊下に置き物や飾り付けをして季節感を取り入れている。	共有空間は明るく清潔感があり、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮がされている。事業所内はバリアフリーになっており、安全面にも配慮されている。廊下や居間には利用者の写真や共同で制作したものが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ、廊下の椅子、食卓などで利用者同士で自由に話をしたり、テレビを見て過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や家具の持ち込みもあり、居心地良く過ごされている。又、思い出の品物もあり、安心されている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や思い出の調度品、家族の写真が飾られており、一人ひとりの個性的な居室づくりが工夫されており、安心して過ごせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には氏名・写真を貼りわかりやすく工夫されている。床はバリアフリーで歩行し易く廊下には手摺が付いており、居室のカーテン、床と廊下のマットも防災を使用して安全に過ごせるように工夫している。		